

ノートルダム清心女子大学
地域連携センター実績報告書

[2014 (平成26) 年度]

ノートルダム清心女子大学
地域連携センター

目 次

センター長ご挨拶	1
I 地域連携センターの概要	2
1. 設立の趣旨	2
2. 概 要	2
3. 組 織	2
4. ノートルダム清心女子大学地域連携センター規則.....	3
II 実績報告	4
1. 地域との連携協力の締結	4
2. 連携協力締結後の実績	4
1) 岡山市教育委員会との実績	4
2) 早島町との実績	5
3) 山陽新聞社との実績	6
4) こくさいこどもフォーラム岡山（インターキッズ）との実績	6
III 資 料	
1. 岡山市教育委員会との連携協力	7
2. 早島町との包括的連携協力	8
3. 山陽新聞社との包括的連携協力	15
4. こくさいこどもフォーラム岡山（インターキッズ）との包括的連携協力	16

センター長ご挨拶

地域連携センター長 菊永 茂司

ノートルダム清心女子大学の起源は、今から130年前の1886年にフランス系の幼きイエズス会によって創設された「私立岡山女学校」に遡ります。そして、現在の「ノートルダム清心学園」は、1924年にアメリカ合衆国マサチューセッツ州から岡山へ派遣されたナミュール・ノートルダム修道女会のシスターが幼きイエズス会から学校の運営を引き継いだことに始まり、現在に至っています。

この130年間、岡山の地で、キリスト教精神に基づく一貫した女子教育が行われています。この中でノートルダム清心女子大学は、地域に根差し、地域に支えられながら発展しています。これまでに蓄積された知的財産を地域の発展と生涯学習のために還元することは本学の使命の一つとなっています。

この一環として、公開講座として、二十数年間にわたって、女性ライフ講座と聖書に関する講座を開講してきました。また、教職員の個々が地域の求めに応じた連携活動を実施してきました。これらを大学として、地域と幅広く、積極的に、より密度高く連携活動を行うことになり、2013年に「生涯学習センター（清心フェリーチェ）」が開設され、現在、特別講演、聖書講座、文化講座、実技講座、リカレント講座、キャリア養成講座の6カテゴリーにおいて26の講座が開講されています。また、この翌年の2014年に「ノートルダム清心女子大学地域連携センター（地域連携センター）」が設立されました。この目的は、センター規則第3条に記されているように、地域貢献を総合的に行うとともに、社会人の学び直し、生涯学習講座の活性化に資することにあります。

「地域連携センター」は、設立初年度に連携包括協定を、岡山市教育委員会、早島町、山陽新聞社、こくさいこどもフォーラム岡山とそれぞれ締結し、連携協力を実施しました。岡山市教育委員会との関係では、岡山市が開催したESDサイドイベント講師やユネスコ世界大会 student（高校生）フォーラムの運営、岡山市立岡山中央中学校への英語補助授業へ学生の派遣を行いました。また、早島町との関係では、早島小学校生の宿泊研修や教育現場、土曜はやしま塾、外国語活動等にボランティアとして学生を派遣しました。山陽新聞社との関係では、講座講師を招聘して清心フェリーチェの就活力養成講座で講演をいただきました。そして、こくさいこどもフォーラム岡山との関係では、国際塾の講座へ学生ボランティアを派遣し、また国際塾の卒塾式は本学ヨゼフホールの教室やラウンジで開催されました。

このように、地域連携センターを介した地域との連携協力は、円滑にスタートし、順調に進行しています。このような連携協力がさらに活発となり、地域と本学との協力関係が多方面へと進展することを願っています。

4. ノートルダム清心女子大学地域連携センター規則

(目的)

第1条 この規則は、ノートルダム清心女子大学学則第5条の4に基づき、ノートルダム清心女子大学地域連携センター（以下「センター」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定める。

(設置)

第2条 ノートルダム清心女子大学（以下「本学」という。）に、センターを置く。

2 センターの英語名をNDSU Community Centerとする。

(設置の目的)

第3条 センターは、本学の建学の精神に基づき、地域貢献を主たる目的とし、地方自治体、産業界、NPO法人等と連携し、産学連携、地域活性化のためのシンクタンク機能などの様々な地域貢献を総合的に行うとともに、社会人の学び直し、生涯学習講座の活性化に資することを目的とする。

(事業)

第4条 センターは、前条の目的を実現するため、次の各号の事業を行う。

- 一 産官学連携のための支援活動
- 二 生涯学習センターとの連携に関する情報提供
- 三 その他、前条の目的を実現するために適当と認められる事業

(構成)

第5条 センターは、次の委員でもって構成する。

- 一 学長
- 二 学長補佐
- 三 大学院研究科長
- 四 学部長
- 五 学科長
- 六 学務部長
- 七 その他、学長が必要と認めた者

(センター長)

第6条 センターに、地域連携センター長（以下「センター長」という。）を置く。

- 2 センター長は、本学学長が委嘱する。
- 3 センター長は、センターを代表し、これを統括する。

(事務)

第7条 センターの事務は、生涯学習センター事務室において行う。

(経費)

第8条 センターに係る諸経費は本学の予算から支弁する。

(その他)

第9条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し、必要な事項は別に定める。

(改正)

第10条 この規則の改正は、評議会の承認を得なければならない。

附 則

この規則は、2014年4月1日から施行する。

II 実績報告

1. 地域との連携協力の締結

- ・2014（平成26）年6月1日
ノートルダム清心女子大学と岡山市教育委員会との連携協力に関する協定を締結
- ・2014（平成26）年8月8日
早島町とノートルダム清心女子大学との包括的連携協力に関する協定を締結
- ・2014（平成26）年8月25日
株式会社山陽新聞社とノートルダム清心女子大学との包括的連携協力に関する協定を締結
- ・2014（平成26）年8月25日
こくさいこどもフォーラム岡山（インターキッズ）とノートルダム清心女子大学との包括的連携協力に関する協定を締結

2. 連携協力締結後の実績

1) 岡山市教育委員会との実績

年 月 日	内 容
2014(平成26)年6月1日	岡山市教育委員会との連携協力に関する協定を締結
2014(平成26)年9月29日	岡山市教育委員からESDサイドイベント当日（11月7日）にかかる講師派遣依頼
2014(平成26)年10月14日	ESDサイドイベント講師（学生10名）派遣回答 派遣学生：（英語英文学科4年 7名） 秋田佳世乃、有本友紀、太田貴子、川村彩加、西本結衣、藤本聖子、堀角真里子 （英語英文学科3年 3名） 赤木咲良、岡野友芽、新谷那津美
2014(平成26)年10月26日 （14：45～15：15）	ESDサイドイベント事前打ち合わせ研修会開催 開催場所：ノートルダム清心女子大学 ロゴス 7-2 セミ
2014(平成26)年11月7日 （9：00～17：00）	ESDサイドイベントに学生10名を派遣 業務場所：岡山コンベンションセンター 業務内容：児童生徒がパネル前において英語で説明する際の英語でのコミュニケーションの取り方の指導・支援 派遣学生：英語英文学科4年7名、同学科3年3名（上記学生）
2014(平成26)年10月22日	岡山市ESD世界会議推進局からユネスコスクール世界大会 Student（高校生）フォーラム学生派遣依頼
2014(平成26)年11月5日～ 11月7日 （7：30～20：00）	ユネスコスクール世界大会 Student（高校生）フォーラムへ学生6名を派遣 業務場所：ホテルグランヴィア他 業務内容：会場準備、受付補助、分科会・全体会運営補助、交流会補助、参加者移動補助 派遣学生：（英語英文学科4年4名） 有安桃子、浅井 萌、日岡円香、横田博子 派遣学生：（英語英文学科3年2名） 黒住綾乃、西咲子

2014(平成26)年12月18日	岡山市立岡山中央中学校長から授業補助のための学校支援依頼
2015(平成27)年1月19日～ 3月6日	派遣学生：教員採用試験合格者4名と教員採用試験1次合格者1名の計5名 (英語英文学科4年5名) 浅井 萌 (2/13、2/26)、有本友希 (1/19、1/26、2/2、2/23、2/25) 川村彩加 (1/22、1/26、2/2、2/18、2/23)、西本結衣 (1/23、1/30、2/2、2/20、2/27)、藤本聖子 (1/19、1/29、2/5、2/12、2/16) 業務内容：英語授業のサポート ※派遣開始にあたり本学英語英文学科教授が同行し、職員会議・1年生学年集会での学生紹介及び担当学生の確認と事前打ち合わせを実施

2) 早島町との実績

年 月 日	内 容
2014(平成26)年8月8日	早島町との包括的連携協力に関する協定を締結
2014(平成26)年9月3日	早島町教育委員会から国立吉備少年自然の家での宿泊研修ボランティア派遣依頼
2014(平成26)年10月6日～ 10月9日	早島小学校5年生の吉備少年自然の家での宿泊研修ボランティアとして児童学科の学生5名が参加 派遣学生：児童学科4年：石橋宏美、土屋美保子、山本朋妙 児童学科3年：藤原加奈子、守屋早友里
2014(平成26)年12月2日～ 2015(平成27)年1月27日	早島小学校で、教育現場でのボランティア活動を実施 活動内容：授業補助 参加学生：児童学科3年 藤原加奈子、守屋早友里 実 施 日：12月2日、12月9日、1月13日、1月20日、1月27日
2014(平成26)年12月27日	早島町教育委員会と①「土曜はやしま塾」②「外国語活動ボランティア講師(学生)派遣について協議 ①「土曜はやしま塾」については、2月の土曜日から学生を2～4名ずつ派遣 ②「外国語活動ボランティア講師」については、3年生クラスへの派遣が3月18日(水)、4年生クラスへの派遣が3月17日(火)と決定。 英語を通じて児童のコミュニケーション力を深め、英語への興味や関心を高める活動への補助を行うこととなる。 (3月17日・3月18日派遣学生) 英語英文学科3年：赤木咲良、岡野友芽、加藤三奈、三宅早紀 児童学科3年：井上カンナ、岡崎万知、小野涼香、山中美喜
2015(平成27)年1月7日・ 1月16日・ 2月9日	学生派遣に際し、2015年1月7日・1月16日・2月9日の3回にわたり事前協議を行う。
2015(平成27)年2月23日	早島町教育委員会コーディネータ及び担当者と本学文学部英語英文学科の伊藤豊美教授と人間生活学部児童学科の福原史子准教授及び参加学生(英語英文学科3年4名、児童学科3年4名)を交えての事前説明会を開催

2015(平成27)年2月7日～ 3月14日 (10:00～11:30)	小学生及び中学生を対象とした補充学習を行う「土曜はやしま塾」にボランティア学生を派遣 (派遣学生) 2月7日(土): 山本華奈、岡崎万知、井上カンナ、真部香苗恵 (児童学科3年4名) 2月14日(土): 山本華奈(児童学科3年1名) 2月21日(土): 山本華奈、高橋ちひろ、中井 楓 (児童学科3年3名) 2月23日(土): 野口かなえ、久山杏奈、真部香恵、榊平真奈、 中井 楓、中原さくら子(児童学科3年6名) 3月7日(土): 岡崎万知、横山真由子、榊平真奈、野口かなえ、 久山杏奈(児童学科3年5名) 3月14日(土): 中井 楓(児童学科3年1名)
2015(平成27)年3月17日・ 3月18日	早島町外国語活動ボランティア講師として学生8名を派遣 3月17日・3月18日 (派遣学生) 赤木咲良、岡野友芽、加藤三奈、三宅早紀(英語英文学科3年4名) 井上カンナ、岡崎万知、小野涼香、山中美喜(児童学科3年4名)

3) 山陽新聞社との実績

年 月 日	内 容
2014(平成26)年8月25日	株式会社山陽新聞社との包括的連携協力に関する協定を締結
2014(平成26)年6月18日 (14:45～16:15)	2014年度「清心フェリーチェ キャリア養成講座」の「就活力養成講座」の「一歩踏み出す就活ナビ! 採用現場から見た就職活動 ～トレーニング編～」の講師として、山陽新聞社 常務取締役 倉敷本社代表 土佐直樹氏を招聘 演 題:「企業の求める人材について」 開催場所:ヨゼフA棟 2階 1202JA

4) こくさいこどもフォーラム岡山(インターキッズ)との実績

年 月 日	内 容
2014(平成26)年8月25日	本学とこくさいこどもフォーラム岡山(インターキッズ)と包括的連携協力に関する協定を締結
2014(平成26)年11月9日	第11期(2014年度)こくさいこどもフォーラム岡山(インターキッズ)国際塾卒塾式を本学ヨゼフホールラウンジにて開催

Ⅲ 資 料

1. 岡山市教育委員会との連携協力

市教委
清心女子大と連携協定

締 来月1日
結 月1日 **教員養成や授業改善**

岡山市教委は27日の定例会で、ノートルダム清心女子大（北区伊福町）と教育連携協定を結ぶことを決めた。小中学校の教員養成や授業改善などで協力し、教育環境の充実に取り組む。同様の協定は岡山大に次いで2例目。6月1日に締結する予定。

協定書は、学校教育の諸課題への対応や教育研究の協力などで連携すると明記している。

市教委によると、協定の締結後、両者の担当者による連絡会議を設け、具体的な連携内容を詰める予定。市教委指導課は「小中連携を促す学生への指導に協力することなど、協力関係を深めた」としている。

同大は「教員を養成する学生に市教委の力を借りたい」としている。

（大島 翠）

（2014年（平成26年）5月28日 水曜日 山陽新聞掲載）

ノートルダム清心女子大学と岡山市教育委員会との連携協力に関する協定書

（目的）

第1条 ノートルダム清心女子大学（以下「甲」という。）と岡山市教育委員会（以下「乙」という。）とは、教員の養成及び資質・能力の向上並びに教育上の諸課題に対応するため、相互に連携協力して研究・協議を行うとともに、その成果を生かすことにより、双方の教育の充実・発展に寄与することを目的として、次のとおり協定を締結する。

（実施機関）

第2条 前条の連携協力は、甲及び乙（その所管する教育機関を含む、以下同じ。）との間で実施する。

（連携協力の内容）

第3条 第1条の規定により実施する連携協力の内容は、次のとおりとする。

- (1) 学校教育上の諸課題（幼児、児童及び生徒への支援を含む。）への対応に関すること。
- (2) 教育研究の協力に関すること。
- (3) その他双方が必要と認めること。

（連携協力連絡会議）

第4条 前条に規定する連携協力の内容を協議するため、連携協力連絡会議（以下「連絡会議」という。）を設置する。

- 1 連絡会議の運営については、別に定める。

（連絡会議の組織）

第5条 連絡会議は別表に掲げる職にある者をもって組織する。

- 1 連絡会議に会長及び副会長を置き、会長は甲の代表者が指名する者をもって充て、副会長は乙の代表者が指名する者をもって充てるものとする。
- 2 会長は、会を代表し、会務を統括する。

（方法、経費等）

第6条 職員の出遣及び甲及び乙それぞれが有する施設等の利用については、業務に支障のない限りにおいて相互に便宜を図るものとする。

- 1 連携協力の実施に要する経費は、原則として、甲及び乙それぞれが負担する。ただし、職員の出遣経費は要請した側が負担する。

（有効期間）

第7条 この協定書の有効期間は、協定締結の日から、平成27年3月31日までとする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の1箇月前までに、甲及び乙のいずれからも終了又は変更の申入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

（補則）

第8条 この協定書に定めるもののほか、連携協力の内容の細目その他必要な事項については、甲及び乙が協議して別に定めるものとする。

- 2 この協定書に定めのない事項及びこの協定書に定める事項に疑義が生じた場合には、甲及び乙が協議してその解決を図るものとする。

この協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、甲及び乙それぞれが記名押印のうえ、各自1通を保有するものとする。

平成26年6月1日

甲 ノートルダム清心女子大学
学長 高木 孝子

乙 岡山市教育委員会
委員長 堀田 澄子

（2014年（平成26年）6月1日 岡山市教育委員会との連携協力に関する協定書）

2. 早島町との包括的連携協力



(2014年(平成26年)8月8日 早島町との協定調印式)

**教育、文化分野で連携
早島町と清心女子大協定**

早島町とノートルダム清心女子大(岡山市北区伊福町)は8日、教育や文化の分野で連携、協力する協定を結んだ。

同町役場で調印式があり、中戸哲生町長と高木孝子学長が協定した。

早島町とノートルダム清心女子大(岡山市北区伊福町)は8日、教育や文化の分野で連携、協力する協定を結んだ。

同町役場で調印式があり、中戸哲生町長と高木孝子学長が協定した。

協定書では、文化振興や人材育成で連携することを明記。町教委によると、大学側は教授らが小中学校教師らの研修で授業の進め方を助言したり、学生が児童生徒の放課後学習を補助する一方、町側は現場の校長らが教員を目指す学生に向けて講義することを想定している。

同町にとって大学との協定は初めて。同大は6月に岡山市教委と同様の協定を結んでいる。(大江恵里奈)

(2014年(平成26年)8月9日 土曜日 山陽新聞掲載)

早島町とノートルダム清心女子大学との包括的連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 早島町(以下「甲」という)とノートルダム清心女子大学(以下「乙」という)とは、文化、学術等の分野において相互に連携協力して研究・協議を行うとともに、その成果を生かすことにより、地域社会の発展及び人材の育成に資することを目的として、次のとおり協定を締結する。

(連携協力の内容)

第2条 前条の規定により実施する連携協力の内容は、次のとおりとする。

(1) 地域文化の振興に関すること。

(2) 相互の教育及び人材の育成に関すること。

(3) その他双方が必要と認めること。

(協議)

第3条 前条の規定する連携協力の具体的な内容については、甲にあっては「総務課」を、乙にあっては「地域連携センター」を窓口として、甲乙双方においてその都度取り決めるものとする。

(方法、経費等)

第4条 職員の派遣及び甲及び乙それぞれが有する施設等の利用については、業務に支障のない限りにおいて相互に便宜を図るものとする。

2 連携協力の実施に要する経費は、原則として、甲及び乙それぞれが負担する。ただし、職員員の派遣経費は要請した側が負担する。

(有効期間)

第5条 この協定書の有効期間は、協定締結の日から、平成27年3月31日までとする。ただし、この協定書の有効期間満了の日より1箇月前までに、甲及び乙のいずれからも終了又は変更の申入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

(その他)

第6条 この協定書に定めのない事項及びこの協定書に定める事項に疑義が生じた場合には、甲及び乙が協議してその解決を図るものとする。

この協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、甲及び乙それぞれが記名押印のうえ、各自1通を保有するものとする。

平成26年8月8日

甲 郡窪部早島町前岡360-1 早島町 町長 中戸哲生

乙 岡山市北区伊福町2-16-9 ノートルダム清心女子大学 学長 高木孝子

(早島町との包括的連携協力に関する協定書)

平成 26 年度早島小学校学校教育ビジョン
早島小学校外国語活動ボランティア講師派遣について

1. ねらい

小学校の外国語活動において、外国人や英語教師を目指す大学生と英語を通して交流活動を行うことにより、異文化理解、英語を通してコミュニケーション活動を深める。児童の英語に対する興味関心を一層高める。

2. 日程・派遣学生・内容

(1) 4 年生「自己紹介スピーチをしよう」

①日時 3 月 17 日 (火曜日) 1~2 校時

1 校時 8:50~9:35 2 校時 9:40~10:25

②派遣学生 8 名

文学部英語英文学科 3 年 (4 名)

赤木咲良 岡野友芽 加藤三奈 三宅早紀

人間生活学部児童学科 3 年 (4 名)

井上カンナ 岡崎 万知 小野涼香 山中美喜

③内容

4 年生 4 クラスのうち、1 校時目に 2 クラス、2 校時目に 2 クラスの授業があり、各クラスを 4 名ずつの学生が担当した。まず、学生が自己紹介を兼ねてモデルスピーチをし、その後グループに分かれて児童の自己紹介スピーチを聴き、質問をしたり感想を伝えたりした。学生がボランティアとして入ることにより、児童が相手意識をもち、英語で伝え合うことへの興味や関心を高めることをねらった活動であった。

(2) 3 年生「町を案内しよう」

①日時 3 月

1 校時 8:50~9:35 2 校時 9:40~10:25 3 校時 10:50~11:35

②派遣学生 8 名 (3 月 17 日と同じ)

③内容

3 年生は 3 クラスあったので、1 クラスずつ 3 校時にわたって授業があった。学生 8 名の参加に対応し、児童は 8 グループに分かれ、それぞれのグループごとに早島町内の施設について地図上でコマを動かしながら道案内をした。早島町のことを知らない学生に、良さを知らせることをねらった活動であった。グループでひと通り道案内が終わると、学生がグループを移動するようにし、そのことで同じ道案内を複数回繰り返すことになり、表現の定着や伝え方の工夫を促すことができた。

3. 資料

(1) 資料 1 指導案

(2) 資料 2 学生レポート

外国語活動の実際を目の当たりにし、児童の積極性ととも、児童間の英語力や英語に対する姿勢の差を実感したようである。また、グループ編成の重要性と難しさ、児童に分かりやすい英語表現やコメントの仕方に課題意識をもつことができています。

(3) 派遣申請等の資料 なし

4. 連絡先

早島町教育委員会 川地 一紘 086-483-2211 090-1338-1433

kazuhiro_kawaji@town.hayashima.lg.jp

(Lesson 15) 自己紹介スピーチをしよう！(交流バージョン)
めあて：「私の名前は～です」「～が好きです」「～歳です」などという言い方を
使って、友達に自己紹介スピーチをすることができる。

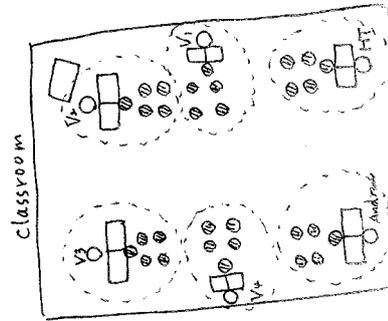
Target Sentences : My name is ~.

I'm ~ years old

I like ~ (食べ物、趣味、運動、キャラクターなど) etc

No.	Min	Activities	Details	Materials
1	5	Greeting and Listening to self-introduction of volunteers	(1) T1 introduces volunteers and greet the class in English. (2) Volunteers introduce themselves one by one. (Name, country, favorites)	Name Plates World Map (Volunteers): Photos etc.
2	30	Speech	(1) いくつかのグループ (ボランティアの数に 応じて) グループに分かれて、スピーチを する。 ※ 教室の友達やボランティアの先生に分かり やすいように意識しながらスピーチをする。 ※ 友達やボランティアの先生から感想や質問 などの受け答えをする。 ※ Volunteers listen to them and ask a few questions and give comments to each pupil.	
3	5	Consolidation and See you	・ Listen to volunteers'	

(MEMO)



(Lesson 15) 外国の人に、町を案内しよう！(交流バージョン)
めあて：英語で、道案内をすることができる。
外国の人に早島の良さを伝えることができる。

Target Sentences: Where is ~?

Turn left. Turn right. Go straight. Stop.

No.	Activities	Details	Materials
1 (8m)	Greeting and Warming up Self-introduction	(1) 英語であいさつを交わす。 (2) ボランティアの方の自己紹介を聞く。 Volunteers make a short speech about themselves (name, home country, favorites).	Name plates Map (volunteers: pictures, etc)
2 (20m)	Activities	グループごとに、ボランティアの人と会話をしながら、町内の施設を案内する。 【写真を見ながら】 V: What's this? S: It's ~. 【地図上に自分に見立てたコマを置いて】 V: Where is ~? S: Go straight. Turn left / Right. Stop! etc.	町内の施設の 写真 地図・コマ (グループ の用意)
3 (10m)	Consolidation	Volunteers talk about their activities and their impressions. ボランティアの方から、活動の様子についての話や感想を聞く。	
4 (2m)	Greeting Good-bye		

早島小学校外国語活動を通して

ノートルダム清心女子大学英語英文学科3年 赤木咲良

1日目(3月17日)

1日目の外国語活動を通してよかったと思う点は、児童たちの一生懸命伝えたい、話したいという気持ちがとても感じられたことです。一人ひとりが考えてしっかりと練習してきたことが伝わってくるスピーチをすることができていました。時に発音が分からない児童がいると、同じグループの他の児童何人かが教えてあげており、子ども同士で教え合うという場面はとても良い勉強になると思いました。授業が始まって、最初に復習をすること、児童たちも今日の内容を改めて思い出し、確認することができていました。多くの児童が先生方や私たちのアドバイスをしっかりと聞き、スピーチをすることに改善を重ね、回数を違うごとに上達を感じられました。向上心や積極性のある児童がとても多く、私自身もスピーチを聞いていてとても楽しかったです。こちらが言ったことに対しては多くの人反応が返ってきて、嬉しさややりがいを感じました。

改善点としては、グループをつくる際に自分がどのグループが分からない児童がいたクラスがあったので、スムーズにグループをつくることできていれば、スピーチの時間ももう少し増やすことができたと思います。また、自分がスピーチするとき以外は、友達もスピーチを聞くわけでもなく他の友達と話している児童がほとんどでした。先生方やボランティアだけでなく、グループの友達に向けてもスピーチし、友達からの評価やアドバイスを聞くのも良いと思います。たくさん児童が徐々に上達しているのが感じられたが、紙を見ずに言える児童の中には絶えてしまった子もいて、スピーチもワンプターンではなく、内容や発表方法にいくつかバリエーションがあればよかったかなと思います。

1目を終えて、まずは児童が楽しんで英語に触れることのできる外国語活動を行っていくことが大切だと思います。私は中学校の教員を目指していますが、特に中学校1年生の英語の授業は、小学校でどのような外国語活動が行われていたのか把握し、関連させたり取り入れたりしながら進めていきたいと思えました。そのためにも、小学校と中学校の連携が大切になってくると思いました。

2日目(3月18日)

2目を終えてよかったと思う点は、児童たちが早島町についてたくさん教えてくれたことです。turn rightやturn leftを考えながら正しく使って積極的に道案内をしてくれました。全員で協力して案内するグループや順番に一人ずつ案内するグループがあって、児童たちが自分たちでルールを決めて活動に取り組んでいることは良いことだと思います。こちらが英語で質問したり話しかけたら道案内してあげる」と言ってくれた児童もいて、英語で道案内が出来るという自信を持つことができた活動になったのではないかと思います。

改善点としては、グループによって英語力や積極性に差があり、全員が積極的に参加して楽しんでるグループもあれば、一人か二人の児童しか参加していないグループもありました。またコマの前後が分かりづらかったため、立体のコマを使用するか矢印を書いたものを使用するとよいのではないかと思います。地図の細かい道は省略して、もう少し大きいものを使うとコマも動かしやすい、今コマがどこにあるのか児童にも分かりやすいと思えました。

2日間の外国語活動のボランティアを通して、小学校で行われている外国語活動の取り組みや実態を知ることができました。また、先生方がしっかりと準備され、児童にとって効果的な活動になるよう考えられているのがとても伝わってきました。私が教員になって授業をする際には、今回の経験を生かして、子どもたちが積極的に参加でき楽しいと感じられる授業をしていきたいと思えます。小学校の段階ではまずは英語に触れてみて、苦手意識を持たせないようにすることが大切だと感じました。小学校で築き上げられるようしっかりと指導や支援をしての前の前向きな気持ちを、中学校の授業でも保ち続けられるようしっかりと学び感じることができていきたいと思えました。2日間という短い時間の中で多くのことを学び感じることができました。ありがとうございました。

<学んだこと>

外国語活動の授業で学んだことは、グループ学習をすることで児童の学びが深まるということです。外国語活動の目標の1つに「外国語活動を通してコミュニケーション能力の素地を養う」ことが掲げられています。コミュニケーションとは自分と相手との関わり合いのなかで生まれるものなので、グループ学習を取り入れた授業形態はこの目標を達成するための効果的な手立てになると学びました。グループ学習を授業の中心に仕組むことによって、友達との関わり合いの中で英語を学び、英語を使ったコミュニケーション能力の基盤が養われると感じました。

<改善点>

自己紹介をするときに、児童が自分の自己紹介の内容が書かれた紙を持っていくことが気になりました。紙があることによって、児童はそこに書かれている正しい英語を話さなくてはいけないという意識に囚われてしまいます。そうすると、児童は意欲的ではなく機械的に英語と関わってしまいます。間違わないことが大切なのではなく、間違ってもいいから伝えたいという気持ちを持って英語と慣れ親しむことが小学校の外国語活動では大切なことだと思います。なので、自己紹介の内容が書かれた紙を持つことについて、どの練習段階まで許すのかルールを決めることが必要であると思いました。

<感想>

早島小学校の児童は、とても素直で朗らかな子たちばかりでした。実際の授業を拝見させていただいたことによって、教科書からは分からない生きた学びをすることができました。学んだことを活かして勉強に励みます。とても楽しい時間をありがとうございました。

<学んだこと>

自分の住んでいる町を道案内することで、外国語と日常生活が結びつき、児童の学びがとて具体的なになると感じました。児童自身も自分の住んでいる町ということももあり「話したい、伝えたい」という意欲が湧いていたように思います。日常生活に馴染みのない英語をどれだけ生活に近づけて学ばせるかを教師が考え実践することによって、児童の生きた学びを保証することができると感じました。教材の選び方、教材との出会わせ方の大切さを学ばせていただきました。

<改善点>

実際に道案内をするときに、英語に自信がなく「やりたくない」という雰囲気を出す児童が極わずかです。そのような児童の学びを保証するためにも、授業の最初の導入の場面でもう少し道案内の練習を学級全体で行った方が良いのではないかと思います。1度分からなくなってしまうと今後もう分からないうからやりたくない」という気持ちを引かずしてしまいます。それでは、外国語活動の授業が児童にとっても苦痛になってしまいます。それを防ぐためにも、導入の場面でしっかりと練習して活動に臨んだり、間違っても構わないという雰囲気学級全体で作りつたりすることが必要だと感じました。

<感想>

児童が道案内をしてくれたら、その案内が上手くいっていかなくても、思いつききり褒めることを大切にして児童と関わりました。上手くできるかどうかということよりも、挑戦したことが立派であるということや伝えられる方法や言葉を私自身もさらに勉強して自分の引き出しを増やしていききたいと思っています。学び多き時間をありがとうございました。

早島小学校での二日間のボランティアを終えて

英語英文学科 121026 加藤 三奈

楽しみな気持ちと同時に不安もあった今回の早島小学校での二日間のボランティアは、あっという間に終わりました。私は、中学校の英語教員になることを目指して現在大学で教職の道を頑張っているところです。そのため、今までもボランティアでは中学校にしか行ったことがありませんでした。楽しみの反面、小学校の子どもたちと上手に関わることができるかどうか不安でした。しかし、小学校に着いたとたんに元気な声や笑顔で挨拶してくれた児童たちのおかげで、私の不安な気持ちはすぐに飛んで行きました。

今回の外国語活動の授業にアシスタントとして入らせていただいたので、その中で感じた良かった点と改善点の二つの観点から振り返りをしたいと思います。

【一日目・4年生】自己紹介スピーチをしよう！

(良かった点)

- ・自分自身のことを発表するため子どもたちの個性を知ることができ、グループでの発表が一通り終わった後も話で盛り上がりました。
- ・スピーチ原稿を全部覚えていた児童がいて、感心しました。習い事で英会話教室に通っているという児童は特に発音も良く、英文が読めない児童に教えてあげている場面も見られ、グループワークの良さも見られました。

・一人ひとりの児童に対する評価のやり方を、「Bye contact! "Big voice!" "Smile!" "Try!"という四枚のカードを用意していたので、やりやすかったです。

・授業の最後に児童たちの感想を聞くことができたことです。

・自己紹介で私が飼っているうさぎを紹介した後、ひとつのグループに入ると「うさぎの人だ！」と声を掛けてくれたり、「これ、僕が飼っている犬です！」と飼っている犬の写真を見せてくれる児童がいたり、自己紹介でいかに自分をアピールできることが大切か分かりました。

(改善点)

・自己紹介の際に使用した写真のサイズが小さく、席が一番奥の児童は見えなかったと思います。申し訳無かったです。

・グループに女子が一人で少し元気の無い児童がいました。グループ構成も大切だと思いました。

・years oldの読み方が分からなくなるとあやふやになっている児童が何人かいました。何と誰のかが聞かれた際、単語の上にカタカナ表記で書いてもらいましたが、この対処方法は正しかったでしょうか。

・アンドリュウ先生のクラスでは、授業の最後に私たちの感想をクラス全体に言う時間が設けられませんでした。

【二日目・3年生】外国の人に、町を案内しよう！

(良かった点)

・英語で道案内をするのは中学校の内容でもあるし、実際に日常生活においても良く使う表現なので、内容として大変良いものだと思います。

・地図の向きが反対の位置にいる児童は、右か左かと迷うシーンもありましたが、体の向きを少し回転させて考えていたり、グループの仲間が教えていたりといった場面があった良かったです。

・地図上でしばらく直進する時に、グループ全員で"Go straight! Go straight! Go straight!"とリズムカナルに元気よく道案内をしてくれて楽しかったです。

・授業後に何人かの児童がアンドリュウ先生の胸にしがみついたり、ハンドタッチを求めたりと、児童とALTとのふれあいのシーンが見られ良かった。

・用意されていた町内の施設の写真以外にも、児童たちが実際に良く利用する施設や場所も案内してくれて、内容を発展させることができ良かったです。

(改善点)

・自分に見立てたコマが様々なキャラクターで工夫されておりおもしろかったのですが、コマは立体的の方が左右のイメージがしやすくなると思います。

・児童の最初の席がU字になっていて全員の顔が見えるのは良いが、ホワイトボードを用いての説明の時や、私たちの自己紹介の時にU字の一番端のいる児童は見えにくかったと思うので工夫の必要性を感じました。

今回のボランティアで学んだことのひとつは、小学校における外国語活動の重要性です。中学校から教科として英語の授業が始まりますが、そのスタートで生徒一人ひとりの英語に対する気持ちが一になつてくると思っています。英語に対して前向きな子どもと、後向きな子どもとでは授業のモチベーションも変わってくると思います。その土台となる小学校の外国語活動に関わることでできたのは、小学校の次のステージである中学校の英語教員になりたいと考えている私にとつてとても貴重な体験でした。

今回は、初日に4年生の2クラス、二日に3年生の3クラスの授業に入らせていただいて、一つひとつのクラスの児童たちの雰囲気の違いに驚きました。同じ年代といってもその集団によっては、授業の最初から元気いっぱいなクラス、最初は少し緊張しているように見えて段々と元気になってくるクラス…と、「クラスカラー」を初めて実感することができました。そして同時に、担任の先生方の子どもたちとの接し方の素晴らしさにも心を打たれました。子どもたちがにぎやかにしているのも、先生の一言でビシッと教室の雰囲気を引き締まったように子どもたちが先生の方を見る、という場面が見られました。授業のアシスタントをさせていただけただけでなく、教育現場にいらっしやる先生のリアルな姿も見ることができ、大変勉強になった二日間でした。今回のボランティアで学んだことを忘れずに、これからの自分の教職の道に役立てていきたいと思えます。

3. 山陽新聞社との包括的連携協力



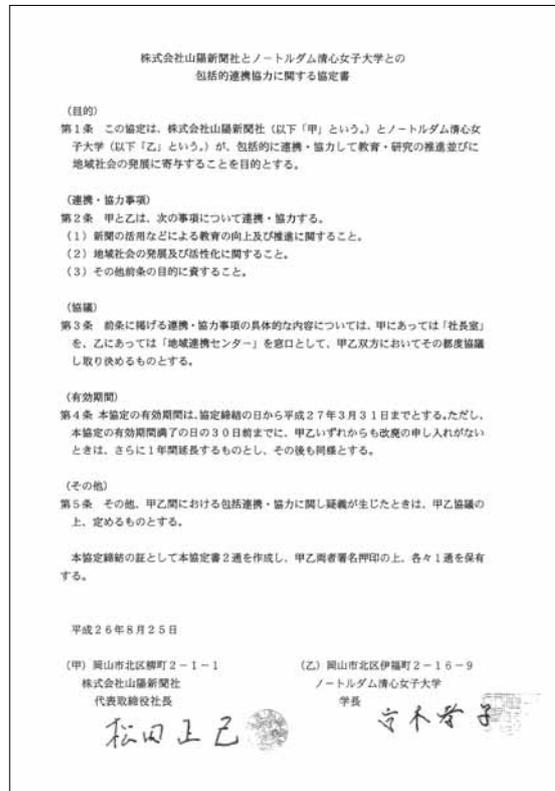
〈2014年(平成26年)8月25日 月曜日 山陽新聞掲載(夕刊)〉



〈2014年(平成26年)8月26日 火曜日 山陽新聞掲載〉



〈2014年(平成26年)8月25日 山陽新聞社との協定調印式〉



〈山陽新聞社との包括的連携協力に関する協定書〉

4. こくさいこどもフォーラム岡山（インターキッズ）との包括的連携協力



〈2014年（平成26年）8月25日 こくさいこどもフォーラム岡山（インターキッズ）との協定調印式〉

こくさいこどもフォーラム岡山（インターキッズ）とノートルダム清心女子大学との
包括的連携協力に関する協定書

（目的）
第1条 この協定は、こくさいこどもフォーラム岡山（インターキッズ）（以下「甲」という。）とノートルダム清心女子大学（以下「乙」という。）が、包括的に連携・協力して教育・研究の推進並びに地域社会の発展に寄与することを目的とする。

（連携・協力事項）
第2条 甲と乙は、次の事項について連携・協力する。
（1）グローバル教育の向上及び推進に関すること。
（2）女性のリーダーシップの育成を通しての地域社会の発展及び活性化に関すること。
（3）その他前条の目的に資すること。

（協議）
第3条 前条に掲げる連携・協力事項の具体的な内容については、甲にあっては「事務局」を、乙にあっては「地域連携センター」を窓口として、甲乙双方においてその都度協議し取り決めるものとする。

（有効期間）
第4条 本協定の有効期間は、協定締結の日から平成27年3月31日までとする。ただし、本協定の有効期間満了の日の30日前までに、甲乙いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間延長するものとし、その後も同様とする。

（その他）
第5条 その他、甲乙間における包括連携・協力に関し疑義が生じたときは、甲乙協議の上、定めるものとする。

本協定締結の証として本協定書2通を作成し、甲乙両者署名押印の上、各々1通を保有する。

平成26年8月25日

（甲）岡山市北区舟橋町2-10
こくさいこどもフォーラム岡山
（インターキッズ）
会長
今西通好

（乙）岡山市北区伊福町2-16-9
ノートルダム清心女子大学
学長
安本香子

〈こくさいこどもフォーラム岡山（インターキッズ）との包括的連携協力に関する協定書〉

地域連携センター実績報告書 [2014 (平成26) 年度]

2016年5月発行

編集・発行 ノートルダム清心女子大学 地域連携センター
〒700-8516 岡山県岡山市北区伊福町二丁目16番9号
TEL 086-252-7045

印刷 有限会社 ダイニ印刷
〒700-0961 岡山県岡山市北区北長瀬本町13番26号
